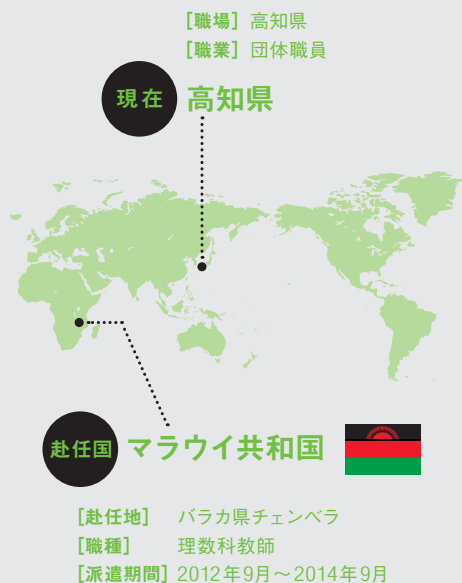




四国の真ん中から、 地域のファンを増やしていく

松田洋平さん 高知県嶺北地域 一般社団法人土佐れいほく観光協議会事務局長
Yohei Matsuda

「観光は、地域の魅力を伝えるだけでなく、暮らしを支える仕組み作りにも繋がる」
現場に飛び込んだからこそ、地域の魅力と課題の両方が見えてきた。

四国のちょうど真ん中に位置する高知県嶺北地域。ここで、一般社団法人土佐れいほく観光協議会で事務局長を務めるのが、JICA海外協力隊(JOCV)経験者の松田洋平さんだ。マラウイで理数科教師として活動した後、JICA職員として勤務した松田さんは、第一子の誕生を機に「自然豊かな環境で子育てをしたい」との思いから高知への移住を決断した。そこには、単なる田舎暮らしへの憧れだけではなく、将来を見据えたキャリア選択があった。

松田さんの現在地 嶺北の魅力を発信する

2023年に地域おこし協力隊として嶺北に移住。2025年4月から観光協議

会の事務局長を務めている。5～6名ほどのチームを率いて、嶺北地域全体の観光振興の舵取りを担う立場だ。

主な業務は、地域の魅力を発信し、交流人口を増やしていくことだ。中でも、地域をあげて学生を受け入れ、農家の暮らしやラフティングを通じて嶺北の自然や暮らしを学んでもらう「教育旅行」は、観光協議会が広域で取り組む柱の一つとなっている。こうした交流事業は、受入家庭をはじめとする地域の収入機会にも繋がっている。

「事務局長という立場になり、地域の内と外、双方の視点を持つ難しさを感じている。地域みなさんと同じ方向を向きながら、新しい挑戦も進めていきたい」地域の現実を見つめながら、前向きに挑戦を重ねる姿勢が伝わってくる。

JOCV時代

一歩を踏み出す勇氣と調整力

「もっと外の世界を見てみたい」学生時代にインドへバックパッカー旅をした経験が、JOCVを志すきっかけとなった松田さん。大学卒業後、塾講師を経て理数科教師の職種に応募した。



JAL国際線ファーストクラス機内食を手がけるシェフ監修のもと、地域食材を活用したメニューを造成。地域の食を生かした商品化に取り組んでいる。



「さめうらカヌーテラス」でのテレビ取材対応。嶺北の自然や地域資源の魅力を、地域外へ発信することも重要な役割。

赴任先の学校での初日は衝撃的だった。「電気もなく、真っ暗な教室に60名ほどの生徒が座っていました。みんな興味津々でこちらを見つめていて、教室に入った瞬間は緊張感が走った」塾で経験があったとはいえ、あまりにも異なる教育環境に当初は圧倒された。しかし、同僚教員と授業作りに取り組み、生徒たちの理解を深めるために試行錯誤を重ねる中で、充実した2年間を過ごすことができた。

忘れられないエピソードがある。日用品の買い出しをお願いしていたヘルパーとの間で、お釣りをめぐるトラブルがあり、後に同僚たちがその事情を知っていたことが分かった。「なぜ教えてくれなかったんだ」と怒り、周囲との距離を感じ、悔しさと寂しさを覚えた松田さん。



JICAインターン受入時の様子。JOCVやJICA職員としての経験を生かし、地域と外部人材をつなぐ取り組みにも関わっている。

そんな時、一緒に活動していたカウンターパートが「俺たちのチームの一員なのに、なぜ教えてあげないんだ」と声をあげてくれた。仲間として受け入れられたと感じた瞬間であり、信頼は時間と対話の中で築かれるものだと学んだ。

「JOCVで得たものは、一步を踏み出す勇氣です。高知へ移住する決断ができたのもJOCVがあったからこそ。知らない土地で多様な人々と話し合った経験もまた、調整力として現在の仕事に活かされています」

未来へのビジョン

国際協力と観光を掛け合わせる
「専門性」への道

JOCVでの現場経験、JICA職員とし



マラウイの赴任先校で、身近な素材を使った酸性・アルカリ性の実験授業を実施。生徒が体験しながら学べる授業づくりに取り組んだ。

松田洋平さん プロフィール

大学卒業後、塾講師を経てJOCVに参加。マラウイで理数科教師として2年間活動する。帰国後はJICA職員として約10年間勤務。第一子誕生を機に高知県への移住を決意し、2023年9月に地域おこし協力隊として嶺北(れいほく)地域へ。2025年4月から、一般社団法人土佐れいほく観光協議会の事務局長を務める。

での国際協力、そして地方の観光振興。嶺北での職務は、これまでの経験を地域づくりに生かす機会でもある。「国際協力×観光を自分の専門性にしていきたい」と、10年後、20年後の仕事の軸を模索している。

一方で「地方にはまだ知られていない価値がある。それを持続可能な形で地域経済に繋げるには、人口減少やインフラ維持など、現実的な課題とも向き合う必要があります」と、地方の厳しさについても冷静な視点を忘れない。

近隣県からも車で概ね2時間圏内とアクセスが良く、豊かな自然が残る嶺北には、土佐あかうしや棚田米、日本酒、焼酎など、個性ある食の魅力が揃っている。松田さんはこれらを活かし、「地域の人誇りをもち、外からも選ばれる地域を目指したい」と話す。

「地方の課題解決に答えはありません。だからこそ、JOCVで培った『現場で考え、人と協働する力』が生きる場面があります。人との出会いや挑戦を通じて、自分自身も地域も一緒に成長できる。それが地方で働く魅力だと思います」



家の前を流れる川で子どもと過ごす松田さん。自然豊かな環境で子育てをしたいという思いも、高知移住のきっかけとなった。